

福島第一原発事故から7年、市民1,100人が結集し、第7回原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会。「リニアも原発も要らない！」の訴え



3月11日(日)午前10時半から、川崎市中原区の平和公園で、原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会が行われ今年も34の市民運動団体などがテントブースを設け、参加者は千百人に上りました。野外メインステージでは午後1時から、ゲストの服部崇さん(福島原発訴訟原告団事務局次長)が今なお原発事故の影響が深刻に残る福島の農業被害の実情を報告、また地元浜岡原発の危険性について三上元さん(元静岡県湖西市市長)が発言し、原発再稼働阻止を訴えました。この後、脱原発かわさき市民、川崎地域エネルギー市民協議会、福島のこどもたちとともに川崎市民の会、リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会、それ安倍改憲NO! 市民アクション高津の各市民グループの代表らが登壇し、それぞれの活動について参加市民に報告しました。

3月11日(日)午前10時半から、川崎市中原区の平和公園で、原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会が行われ今年も34の市民運動団体などがテントブースを設け、参加者は千百人に上りました。野外メインステージでは午後1時から、ゲストの服部崇さん(福島原発訴訟原告団事務局次長)が今なお原発事故の影響が深刻に残る福島の農業被害の実情を報告、また地元浜岡原発の危険性について三上元さん(元静岡県湖西市市長)が発言し、原発再稼働阻止を訴えました。この後、脱原発かわさき市民、川崎地域エネルギー市民協議会、福島のこどもたちとともに川崎市民の会、リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会、それ安倍改憲NO! 市民アクション高津の各市民グループの代表らが登壇し、それぞれの活動について参加市民に報告しました。

矢沢共同代表「リニア工事はゼネコンを儲けさせるだけ、 財投は国費を食い物にするだけ」

代表報告の中でリニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会の矢沢美也共同代表は、「リニア新幹線工事は沿線が始まっている。ゼネコン4社の談合事件はリニア工事がゼネコンを儲けさせるだけだということが明白になった。また、JR東海に対する3兆円の財政投融資は国費を食い物にするだけだ。事件を徹底解明するよう東京地検特捜部あての要請はがきも始めた」と述べました。そしてストップ・リニア! 訴訟の経過を報告した上で、「リニア工事は10数年続き自然環境や生活環境に耐えがたい被害を与えるとして、「リニアと原発はこれからの社会に必要な。ストップするまで戦いましょう」と訴えました。(右上写真はステージで訴える矢沢さんら)



署名105筆集約、東京・神奈川連絡会の署名数7千超える



東京・神奈川連絡会は今年もテントブースを設置し、リニア新幹線工事の自然への影響などの写真展示のほか、JR東海の葛西名誉会長の原発再稼働推進発言や、川崎市内の非常口工事などについて報告するチラシ300枚を配布しました。また、会場内やブースで、東京地裁裁判官宛のリニア訴訟の公正審理を求める署名も集め、105筆を集約できました。このほか、岩波ブックレット『リニア新幹線が実現できない7つの理由』4部を販売しました。東京・神奈川連絡会集約の署名数は7千筆を超えました。

更に増やすよう奮闘しましょう。会員の参加者は、矢沢・山本(太)・伊藤(清)・山本(マ)・山本(國)・西村・三枝・安藤・天野の9名でした。お疲れ様でした。(順不同、敬称略)。

メインステージでは最後に「福島では避難解除後も放射線レベルは高く国民の安全は守られていない。海外では事故のおそれがある原発の停止や廃炉が相次いでおり、日本政府は原発から自然再生エネルギーの転換をはかるべきであり、原自連や野党の原発ゼロ法案の成立を目指そう」という集会宣言が読み上げられ、満場一致で採択されました。集会参加者は午後2時半から武蔵小杉駅まで、「原発要らない!」のコールを上げながらパレードしました。(2018.3.11 報告天野)